

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2017年6月8日

No.18

会社：現時点では「昨年の実績並み」で考えている

組合：「昨年並み」とは何事だ！組合員の苦勞が全く反映されていない！！

— 2017年度 夏季手当第4回交渉報告 —

中央本部は、夏季手当第4回交渉を行い、会社は「現時点の考え方」について以下のように示しました。

- ①6月に入り昨日までの収入速報値はコンテナは対計画100.9%、車扱は105.2%となり全体で101.3%となり、自動車部品や農産品、特積貨物の輸送が好調となっている。また年度累計も対計画で2億円程度上回っている。
- ②これまでの交渉でも指摘されているが、昨年度の黒字決算は社員が頑張った結果であり、改めて感謝を申し上げる。しかし、今年度は動力費や線路使用料の増など、大幅なコスト増が見込まれている。
- ③今年度は昨年度よりも厳しい状況となる。期末手当は年度の計画に立脚し、引き続き鉄道事業部門の黒字化を継続したい。
- ④したがって会社としては「平成29年度事業計画」及び「中期経営計画2021」の達成にむけていくことから、夏季手当について現時点では「昨年の実績並み」と考えている。

会社の業績は計画を達成している！！

それなのに「昨年の実績並み」とはふざけるな！！

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ①昨年度の決算実績及び今年度の昨日までの収入動向をみても「昨年の実績並み」という会社の考え方は到底、納得できない。収入動向から見ても組合員は夏季手当に対して大きな期待をもっている。「モチベーションの向上」ということがあらゆる場面で言われているがこの会社の考え方では不満しか残らない。
- ②会長は『収入が向上した場合は、みんなで分かち合しましょう』と言ってきた。経営トップがこのように判断をしている。会社として業績給というならば、現時点での収入状況からしても、要求に対して満額で応えるのは当然である。組合員の苦勞に応える経営の姿勢が感じられない。計画を達成させるのであれば人への投資を行うべきである。
- ③会社は「出せない理由」ではなく、「出さない理由」を並べているに過ぎない。このような会社経営陣の姿勢は絶対に許すことが出来ないし、認めることも出来ない。
- ④この3年間、職場では額に汗して、時には血を流して奮闘してきた組合員の苦勞を足蹴にするような現時点の会社の考え方に憤慨する。計画の達成は職場で働く組合員の努力によって達成できるのではないか。経営陣は姿勢をただし、回答指定日に誠意ある回答を示すべきである。

組合員のみなさん！本日以降、夏季手当獲得の闘いは「山場の闘い」に突入しました。会社経営陣は目標の達成は社員が努力した結果であることは認めるものの、その努力に報いる姿勢は全く感じられません。この会社経営陣の姿勢をただすために全組合員が結集し、一丸となって職場からの創意工夫した闘いをつくりだし、満額獲得に向けた闘いを展開しようではありませんか！

中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は6月15日（木）です。